

冬におさらい、牛伝染性リンパ腫

牛伝染性リンパ腫（旧名称：牛白血病）は、吸血昆虫による伝播が主要な感染経路なため冬季には感染リスクが低くなりますが、継続した対策が重要です。牛伝染性リンパ腫についておさらいし、来春以降の対策の用意をしましょう。

1 病原体

- ・牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）

2 症状

- ・感染牛の多くは生涯無症状（感染していても見た目ではわからない）
- ・発症牛では体表リンパ節の腫大、下痢、その他一般状態の悪化など
- ・感染牛のうち数%が発症し、致死的経過をたどる
- ・一度感染すると生涯感染が持続する
- ・予防ワクチンや感染牛に対する治療法はない



3 感染経路

- ・感染血液による水平伝播
 - 吸血昆虫による媒介、直検手袋や注射針の使い回し、不適切な除角や耳標の装着など
- ・陽性母牛からの母子感染
 - 分娩時の産道感染、陽性母牛の乳汁の給与など

4 農場での感染対策

- ・吸血昆虫対策
 - 防虫ネットの設置、畜舎周辺の草刈、IGR 剤等の散布、耳標型殺虫剤の使用など
- ・陽性牛と陰性牛の分離飼育
 - 分離が困難な場合は陽性牛群と陰性牛群間に空房を設けるだけでも効果あり
- ・出血を伴う処置への適切な対応
 - 除角や削蹄、去勢時の確実な止血、分娩後の分娩房の洗浄
- ・乳汁感染対策
 - 陽性母牛の乳汁は、子牛に与える前に**加温処理**（60℃で 30 分）または**凍結処理**（-25℃（家庭用冷凍庫で OK）で一晩凍結）

いまから可能な対策等は裏面をチェック→→→

☑来期に備えて！牛伝染性リンパ腫対策！！

吸血昆虫の活発な活動がない冬期間も、継続した感染対策および来期を見据えた対策が必要です。また、水平伝播のリスクが低い冬季に農場の感染状況を確認することで、春以降の牛伝染性リンパ腫対策に活用することができます。

○冬季も継続した対策を実施しましょう！

- ・ **出血を伴う処置は適切に実施**し、汚染血液を介した感染を防ぎましょう。
- ・ 陽性母牛の乳汁は、子牛に与える前に**加温処理**または**凍結処理**を実施し、母子感染を防ぎましょう。初乳製剤の利用や陰性牛の乳汁給与も検討しましょう。
- ・ サシバエの蛹は、たい肥中で越冬し春に大量に羽化します。冬の間も、**たい肥の切り替えしや IGR 剤の散布**を実施しましょう。

○農場の感染状況を確認しましょう！

- ・ 飼養牛の全頭検査を実施することで、農場の**感染状況を把握**することが可能です。これまで感染状況を確認したことがない農場、過去の検査から時間が空いている農場は、農閑期の冬季に全頭検査をおすすめします！

感染状況確認検査の流れ

- ①飼養牛全頭の抗体検査（6か月齢未満の子牛は除く）を実施
- ②抗体陽性牛は遺伝子検査を実施しウイルス量を測定することで、陰性牛への伝播リスクを確認（感染牛のウイルス量が高いほど、陰性牛への伝播リスクが高いとされています）

県では牛伝染性リンパ腫対策を支援しています！

牛伝染性リンパ腫対策は飼養形態や浸潤状況により農場毎に異なりますが、管内では感染予防対策により、清浄化や陽転率ゼロを達成した農場もあります。

清浄化対策や感染状況確認検査等に興味のある方は、気軽に家保までご連絡ください。

感染状況を調べてみたい…

何から始めればいいのか
分からない…

いつでも相談してください！一緒に BLV 対策を始めませんか？

庄内家畜保健衛生所：0235-68-2151